

基礎分野

【科目】日本語表現法	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】吉井 千周	【開講時期】第1学期 【配当年次】1年
【所属・職位等】都城工業高等専門学校一般科目文科	准教授

【授業における到達目標】

社会科学に関する論点を整理しながら理解するためのコンピテンシーについて、アクティブ・ラーニングを通して習得することを目的とする。その結果、課題解決に向けての改善方法を多面的に模索できる能力を育成することを目的とする。

【授業の概要】

本講義では講義を3つのパートに分け、アクティブ・ラーニングを通して、以下の能力を養成することを目標とする。Ⅰ情報リテラシー・コンピテンシーをめぐる体系的な知識の理解、Ⅱ課題発見能力の向上、Ⅲコミュニケーション能力の向上、Ⅳ問題改善・解決のための提案力の向上、のプロセスを経て、学生にアクティブ・ラーニング手法のスキル獲得をうながす。

【アクティブ・ラーニング】

この授業自体がアクティブ・ラーニング技法を学ぶものであるが、主としてKJ法、Mindmap法、ジグゾー法等を用いたアクティブ・ラーニングを用いた授業展開を行う。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	授業の進め方とこの授業のねらい
第2回	情報収集力の向上1
第3回	情報収集力の向上2
第4回	情報分析力の向上1
第5回	情報分析力の向上2
第6回	課題発見力1
第7回	課題発見力2
第8回	プレゼンテーションスキル
第9回	構想力1
第10回	構想力2
第11回	表現力1 [書く]
第12回	表現力2 [話す]

回数	内容（方法）
第 13 回	表現力 3 [話し合う]
第 14 回	実行力
第 15 回	終了試験

【試験・課題等の内容】

授業を通して 5 回のレポートを課します(50 点)、また最終試験では、小論文を執筆してもらい、その合計点によって成績を判定します。(50 点)。

【評価方法】

レポート、及び最終試験の成績の合計によって判定します。

【テキスト】

河合塾 PROG 開発プロジェクト編著(2013)『問題解決のためのリテラシー強化書 講義編』河合塾

【参考文献】

常日頃から、新聞などを目を通しておくことが望ましい。

【授業外における学修方法及び時間】

自由なアイデアで多くの問題を解決できる能力を身につけましょう。質問がある場合は、senshu@cc.miyakonojo-nct.ac.jp のアドレスに「学校名・学科名・氏名」を必ず書いて送ってきて下さい。これらの情報が書いていない場合は返信しません。

基礎分野

【科目】看護物理学	【単位数・時間】1単位（30時間）	
【担当講師】野口 大輔	【開講時期】第1学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】都城工業高等専門学校	物理工学科	教授

【授業における到達目標】

- 1) 身体/身体ケアに関する力学的原理の基礎を説明できる。
- 2) 検査・治療・処置に関する科学的裏付けを理解し説明できる。

【授業の概要】

人間の生活に必要な物理学的原理の基礎を想起し、看護技術の科学的裏付けや医療機器の仕組みについて理解する。

【アクティブ・ラーニング】

授業中に補足資料を配布し計算を必要とする問題を解いてもらう。その後、導いた具体的な解法をグループの学生に説明する。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	移動動作に必要な力の加減と物の量を表す単位について スカラーとベクトル、ベクトルの加法減法、力の単位
第2回	体位変換に役立つトルクの知識 トルクとてこ
第3回	仕事とエネルギー 運動量と撃力
第4回	安定と不安定 重心の求め方、重心と安定性
第5回	力のつり合い：牽引 牽引療法、牽引と滑車、ラッセル牽引法
第6回	作用・反作用 反対牽引、作用・反作用
第7回	摩擦 摩擦の種類と方向、斜面に働く摩擦力
第8回	比熱 温度の単位、比熱の定義
第9回	圧力の基礎知識 圧力とは、圧力を高さで見る
第10回	動圧と側圧 圧力の応用、ベルヌーイの定理、血圧
第11回	酸素と圧力の関係 ポンペの種類、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則
第12回	比重 比重と密度、浮力、オートクレーブの原理
第13回	酸・アルカリと pH 酸性・アルカリ性、pH(ペーハー)、緩衝溶液

回数	内容（方法）
第14回	濃度 重量パーセント、容量パーセント、モル濃度、
第15回	浸透圧 Eq 濃度、浸透圧、浸透圧の求め方

【試験・課題等の内容】

定期試験は授業で使用した教科書および参考資料を中心に、重要語句の説明や計算問題を出題する。課題は適宜、計算問題を中心に行う。

【評価方法】

中間試験・終了試験、出欠状況を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

完全版ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学ー 学研メディカル秀潤社
物理課題(自作)

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

事前学習により、当該授業時間で進行する部分を高校基礎科学等の教科書にて復習すること。

基礎分野

【科目】情報科学	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】金澤 洋司 ¹⁾ ・宮川 泰一 ²⁾	
【開講時期】第1学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】1) パソコンスクールシステムランド 統括マネージャー	
2) パソコンスクールシステムランド マネージャー	

【授業における到達目標】

社会における情報化の進展およびコンピューターの役割や仕組みとその利用方法を理解する。

【授業の概要】

情報の基本的な考え方、情報処理の実際を学ぶとともに、コンピューター操作について学ぶ。情報モラルとセキュリティ対策等を含むコンピューター活用の可能性を幅広く理解する科目である。コンピューターの活用による統計処理の基本を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

実際にパソコン操作を行いながら、実践レベルでの学習を行う。
また、パワーポイントの応用としてグループ学習を取り入れ、プレゼンテーションの技術を身につけられるように学習する。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	情報モラル①（個人情報、コピー&ペーストと引用の違い） パソコンの基本操作
第2回	情報モラル②（個人情報、著作権） ワード基礎①（文章作成・編集）
第3回	情報モラル③（著作権問題） ワード基礎②（図の挿入、表の挿入）
第4回	情報モラル④（著作権、CDコピー） ワード応用①（長文作成、見出し等）
第5回	ワード応用②（見出し、ページ番号） エクセル基礎①（画面の説明、特徴）
第6回	情報モラル⑤（アップロード動画、ウイルス対策） エクセル基礎②（データ入力、編集、数式）
第7回	情報モラルとセキュリティ対策 エクセル応用①（表の編集、印刷）
第8回	情報セキュリティ（ネットオークションの注意点） エクセル応用②（グラフ、データベース）
第9回	情報セキュリティ（スマホ依存症） エクセル応用③（集計、分析）
第10回	エクセル評価テスト パワーポイント基礎①
第11回	情報モラル（メールの送信、BCC、CC）（SNSの信ぴょう性） パワーポイント基礎②（スライド、オブジェクト挿入）
第12回	パワーポイント応用①（オブジェクトの挿入、アニメーション、画面操作）

回数	内容（方法）
第13回	パワーポイント・プレゼンテーション（グループ発表）
第14回	情報モラル パワーポイント応用
第15回	情報モラル、クラウドの活用、メールの書き方 パワーポイントの応用 終了試験含む

【試験・課題等の内容】

必要時、課題を提示する。

【評価方法】

レポート課題および出席等により、総合的に評価する。

【テキスト】

情報リテラシー総合編 情報モラル&セキュリティ Windows8.1 富士通 FOM

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

授業後に復習を行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。

基礎分野

【科目】心理学	【単位数・時間】1単位(30時間)	
【担当講師】神垣 彬子	【開講時期】第1学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】南九州大学 非常勤講師		

【授業における到達目標】

現代社会では多様な価値観や生活様式が認められており、それに伴い、医療現場における心理的ケアのニーズも複雑化しつつある。将来携わるであろう、対人スキルや客観的視点が重視される医療や福祉の現場で役立つ心理学の知識を習得することを目的とする。

【授業の概要】

医療現場で求められる人間の「こころ」に関する知識について、現代社会の特徴に重点を置きながら、社会心理学、教育心理学、臨床心理学、実験心理学の観点から講義する。客観的に物事を捉える視点を学び、医療現場における心理学の果たす役割について考える。

【アクティブ・ラーニング】

心理学の知識を必要とする、将来、直面することが想定される医療現場における場面に対するディスカッションやロールプレイングを通して、座学で学んだ知識を、実際の場面で応用可能な知識に深めた上で習得できるようになることを目指す。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	心理学を学ぶための心構え—心理学とは科学である—
第2回	心理学とはなにかを知る①：人間の心の「分析」
第3回	心理学とはなにかを知る②：心理学の歴史
第4回	人間の感覚と心理学との関係について理解する①：物事の認識
第5回	人間の感覚と心理学との関係について理解する②：記憶と忘却
第6回	人間の感覚と心理学との関係について理解する③：知覚と感覚
第7回	人間の成長を心理学的視点から捉える①：乳幼児期の発達
第8回	人間の成長を心理学的視点から捉える②：児童期の発達
第9回	人間の成長を心理学的視点から捉える③：青年期の発達

回数	内容（方法）
第10回	人間の成長を心理学的視点から捉える④：成人期・高齢期の発達
第11回	人間の性格や感情を心理学の理論を通して理解する①：性格とはなにか
第12回	人間の性格や感情を心理学の理論を通して理解する②：感情とはなにか
第13回	社会における心理学的問題のメカニズムと対処方法を知る①：集団心理
第14回	社会における心理学的問題のメカニズムと対処方法を知る②：リーダーシップ
第15回	社会における心理学的問題のメカニズムと対処方法を知る③：リフレーミングとアサーション

【試験・課題等の内容】

試験・課題については、いずれも講義内容に即したものを出题する。講義内容には、板書だけでなく口頭にて説明した内容も含まれる。そのため、受講時にノートを取ることを推奨する。

【評価方法】

定期試験（基礎用語の理解と指定評価方法テーマに対する論述問題）100点の結果で評価する。

【テキスト】

新体系 看護学全書 基礎科目 心理学 メヂカルフレンド社

【参考文献】

適宜紹介する。

【授業外における学修方法及び時間】

授業後にノートの復習を必ず行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。

基礎分野

【科目】人間関係論	【単位数・時間】1単位(15時間)	
【担当講師】神垣 彬子	【開講時期】第1学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】南九州大学 非常勤講師		

【授業における到達目標】

人と人とが信頼感をもち、共に支え合って生活することができるために必要な知識や技術について理解し、さらに、その内容を自分の言葉で表現したり、医療や福祉の現場における様々な人間関係の構築のための計画を立てたりすることができるようになることを目的とする。

【授業の概要】

医療現場で必要とされる人間関係に関する知識について、クライアントとの間の関係構築だけでなく、スタッフ間の関係構築にも焦点を当てて講義する。また、人が他者と関係を構築するために必要な知識や技術を学び、どのような場面でどのような形でそれらの知識や技術を生かすことができるかを、自らの力で考える。

【アクティブ・ラーニング】

人間関係に問題が生じている様々な場面に対するディスカッションやロールプレイングを通して、座学で学んだ知識を、実際の場面で応用可能な知識に深めた上で習得できるようになることを目指す。

【授業計画】

回数	内容 (方法)
第1回	人間関係論を学ぶための心構え—現代社会と人間関係—
第2回	人間関係の「発達」における人とのかかわりの重要性について理解する：①愛着の形成
第3回	人間関係の「発達」における人とのかかわりの重要性について理解する：②遊びの中で育つ人間関係
第4回	人間関係の「発達」における人とのかかわりの重要性について理解する：③青年期以降の人間関係の特徴
第5回	人間関係を円滑に結ぶための知識と技術を知る①：公と私の切り替え
第6回	人間関係を円滑に結ぶための知識と技術を知る②：カウンセリングマインド
第7回	人間関係を円滑に結ぶための知識と技術を知る③：多様性を認めるということ

【試験・課題等の内容】

試験・課題については、いずれも講義内容に即したものを出题する。講義内容には、板書だけでなく口頭にて説明した内容も含まれる。そのため、受講時にノートを取ることを推奨する。

【評価方法】

定期試験（基礎用語の理解と指定評価方法テーマに対する論述問題）100点の結果で評価する。

【テキスト】

看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研メディカル秀潤社

【参考文献】

適宜紹介する。

【授業外における学修方法及び時間】

授業後にノートの復習を必ず行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。

基礎分野

【科目】 家族関係論	【単位数・時間】 1 単位(15 時間)	
【担当講師】 金子 幸	【開講時期】 通年	【配当年次】 3 年
【所属・職位等】 南九州大学 人間発達学部 子ども教育学科講師		

【授業における到達目標】

家族および家族関係について理解を深める。

【授業の概要】

講義やグループワーク、演習を行い、自らの考えを深める授業である。

【アクティブ・ラーニング】

・グループワークや演習により、自らの考えを述べたり、意見交換をとおして考えをまとめたりする。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第1回～ 第2回	1. 家族看護の対象理解 1) 家族関係 (1) 家族とは (2) 家族構造 (3) 家族機能 (4) 現代の家族とその課題 ① 現代家族の様相 ② 現代家族の課題	
第3回～ 第4回	2. 家族看護を支える理論と介入法 1) 家族を理解するための理論 (1) 家族発達理論 (2) 家族システム論 2) 家族に変化をもたらすための介入 (1) 家族療法 (2) 家族を支える介入	
第5回～ 第7回	3. 家族看護展開の方法 1) 家族アセスメント	

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。適宜レポート課題あり。

【評価方法】

終了試験 70%、レポート課題 30%

【テキスト】

系統看護学講座 家族看護学 医学書院

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

毎回、1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

基礎分野

【科目】社会学	【単位数・時間】 1 単位（30 時間）
【担当講師】 菊井 高雄	【開講時期】 第2 学期 【配当年次】 1 年
【所属・職位等】 国立法人大学 宮崎大学 医学部医学科	准教授

【授業における到達目標】

- (1) 人間形成のメカニズムとプロセスが理解できる。
- (2) 人間の社会的行動を社会学的視座から理解できる。
- (3) 自分自身の考え方で社会を読み解くこと＝主体性を志向する。

【授業の概要】

(授業のねらい)

「社会学」は人間の社会的行動（社会生活）に潜む一定の規則性（社会関係、社会秩序など）とその因果関係を体系的に研究するものです。本講義を通して社会学という領域の見方・考え方を知り、学生諸君の個人的行動・事象を社会（ミクロにもマクロにも）と結びつけて解釈し理解する楽しみを見つけて下さい。

【アクティブ・ラーニング】

高校社会科のような「暗記の強要」はしない。その分、考え方の理解と日常生活における具体的な適用を重視する。講義中は口述筆記も必要なので、ノートをとる技術を磨いてほしい。また、課題に対する予習と講義の復習を時々やってほしい。なお、アクティブ・ラーニングと呼ばれる双方向的な講義スタイルも取り入れる予定。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	社会の中の人間：あなたは社会のために作られた？
第2回	文化と価値：あなたが社会の中で無意識に学んでしまうもの
第3回	集団と個人：誰があなたを形成するのか
第4回	自殺と社会：生まれる前から自殺率が決められているとしたら？
第5回	宗教と資本主義：水と油と思ったら、本当は仲良し？
第6回	自由からの逃走：人はどうしてカリスマに弱いのか？
第7回	潜在的機能の話：意図せざる結果がもたらす悲喜劇
第8回	場面と対面：空気の読めない君がなぜ疎まれるのか
第9回	都市の人間関係：田舎ものにはわからない複雑で高級な仕掛け
第10回	逸脱と社会変動：アメリカで犯罪が多発する理由？

回数	内容（方法）
第 11 回	社会病理現象：「子ども問題」の根っこを探ると何が出てくる？
第 12 回	家族・過程・世帯：類語の語義・略歴を探る
第 13 回	家族の本質：社会制度としての家族
第 14 回	家族の DVD 視聴
第 15 回	特別講義：人体解剖学の再興（解剖図の社会史）

【試験・課題等の内容】

出席状況と筆記試験（教科書・自筆ノート・配布資料持ち込み可）で総合的に判断する。
筆記試験では、客観式と記述式を併用する予定。

【評価方法】

出席と筆記試験（出席：30点、筆記試験：70点）

【テキスト】

社会学入門 改訂版 （井上 俊著）放送大学教育振興会、1993年

【参考文献】

講義中に紹介する。

【授業外における学修方法及び時間】

冬休みに読書又は視聴課題を出す。

基礎分野

【科目】生活文化論	【単位数・時間】1単位（15時間）
【担当講師】桑畑 洋一郎	【開講時期】第1学期 【配当年次】1年
【所属・職位等】国立大学法人 山口大学 人文学部 准教授	

【授業における到達目標】

認知症等を患った高齢者に対する在宅医療・在宅看護をベースにして、①人の生と死により深く携わるために対象者の「生活文化」を把握することの重要性を理解すること、②「生活文化」を把握するために必要な姿勢や身構えを理解することの2点を到達目標とする。

【授業の概要】

在宅医療や在宅看護に関するドキュメンタリー映像を見ながら、「生活文化」を把握した上での医療・看護と、それによって人の生と死を豊かにすることを学んでいく。集中講義で実施する予定である。

【アクティブ・ラーニング】

授業中にコメント収集アプリを用いてコメントを集める。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	授業の概要の説明、この授業における「生活文化」とは何か
第2回	「在宅医療」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り①
第3回	「認知症患者の在宅看護」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り①
第4回	第1日目の総括
第5回	「在宅医療」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り②
第6回	「認知症患者の在宅看護」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り②
第7回	「認知症患者の在宅看護」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り③
第8回	第2日目の総括、授業全体の総括

【試験・課題等の内容】

2日間それぞれに、授業を受けての感想と考察を記述して提出してもらう。

【評価方法】

上記の感想と考察を元に評価を行う。

【テキスト】

なし

【参考文献】

必要に応じて授業内で適宜呈示する。

【授業外における学修方法及び時間】

- ・ 関連しそうなことについての新聞やニュースを把握しておくこと。
- ・ 授業で取り上げた内容を、個人的経験や、今後実習等に参加した際の経験と照らし合わせてみること。

基礎分野

【科目】教育学	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】山田 裕司	【開講時期】2学期 【配当年次】1年
【所属・職位等】南九州大学 人間発達学部子ども教育学科 准教授	

【授業における到達目標】

本授業を通して、教育学の基礎的な知識を学ぶと共に、ひとを「教育」すること、ひとが「学ぶ」ことを支援するために必要な知識・技術を学びます。これらの知識・技能の学びを通して、年齢期やひとり一人に応じた教授法を身につけていきます。

具体的な到達目標は以下の通りです。

- (1). 乳幼児の発達の特徴を学ぶと共に、子どもたちの健康指導に係る講座の企画とその実施方法についての知識と技法を身につける。
- (2). 成人期における学び（リカレント教育、継続教育などの生涯学習）の特徴を学ぶと共に、成人を対象とした保健衛生に係る講座の企画とその実施方法についての知識と技法を身につける。
- (3). 生涯を通して学び続ける重要性について、生涯学習の視点から学ぶ。
- (4). 年齢期に応じた教授法について、その技術（教授法）を身につける。
- (5). 他科目（小児・成人看護等）との関連性を認識し、看護の専門的な知識の学びを深める。

【授業の概要】

本授業では、教育学の基礎的な知識に関する講義と、社会的課題となっている教育事象について講義を行います。基礎的な知識では、乳幼児教育と生涯学習・社会教育について中心的に行います。また、教育事象では、学生の皆さんが経験してきた学校教育や家庭教育、キャリア教育を題材とし、「なぜ、学校教育では〇〇に取り組んでいるのか」、「□□の教育的意味は何か」について講義していきます。

また、講義と同時並行で、乳幼児期と成人期を対象とした講座の企画にも取り組みます。対象となる年齢期の特徴を踏まえた講座を企画し実施することを通して、自らが調べた/知っている知識や情報を伝える技法について学んでいきます。なお、講座の企画はグループワークを通して行うため、協調性やリーダーシップといった能力の育成も図っていきます。

【アクティブ・ラーニング】

本講義では学生の主体性を育むために、講義では一方的に話を進めるのではなく、学生が考えて発言する機会を積極的に取り入れます。また、グループで講座の企画に取り組むことにより、協調性やリーダーシップ、傾聴力などのコンピテンシー能力の育成を図ります。さらに、グループ発表では、発表者は自己評価とグループ評価を行うと共に、聞いている学生は他者評価を行うことで、能動的な学修の推進を図っています。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	教育学の基礎：学校教育と教育問題 （講義を中心に、学校教育制度について学びます）
第2回	幼児教育の基礎：保育所、幼稚園、認定こども園 （講義を中心に、保育・幼児教育制度について学びます）
第3回	世界の幼児教育と幼児教育講座の説明

回数	内容（方法）
	（レッジョエミリア教育など、世界の幼児教育について講義すると共に、幼児教育講座の企画について解説します）
第4回	幼児期の遊びと、幼児教育講座の企画（1） （前半は幼児教育に関する講義、後半はグループワークを行います）
第5回	幼児期の年齢別特徴と、幼児教育講座の企画（2） （前半は幼児教育に関する講義、後半はグループワークを行います）
第6回	愛着と自己肯定感と、幼児教育講座の企画（3） （前半は幼児教育に関する講義、後半はグループワークを行います）
第7回	保育・幼児教育施設的环境と、幼児教育講座の企画（4） （前半は幼児教育に関する講義、後半はグループワークを行います）
第8回	幼児教育講座の発表（1） （企画した講座を発表すると共に、発表しない学生は他者評価を行います）
第9回	幼児教育講座の発表（2） （企画した講座を発表すると共に、発表しない学生は他者評価を行います。また、発表後は、個人及びグループにて振り返りを行います）
第10回	生涯学習・社会教育という学びと、生涯学習講座の説明 （学校卒業後の「社会人の学び」について講義すると共に、生涯学習講座の企画について解説します）
第11回	教科書制度と、生涯学習講座の企画（1） （前半は生涯学習に関する講義、後半はグループワークを行います）
第12回	リカレント教育・継続教育と、生涯学習講座の企画（2） （前半は生涯学習に関する講義、後半はグループワークを行います）
第13回	学校教育における生きる力と、生涯学習講座の企画（3） （前半は生涯学習に関する講義、後半はグループワークを行います）
第14回	生涯学習講座の発表（1） （企画した講座を発表すると共に、発表しない学生は他者評価を行います）
第15回	生涯学習講座の発表（2） （企画した講座を発表すると共に、発表しない学生は他者評価を行います。また、発表後は、個人及びグループにて振り返りを行います）

【試験・課題等の内容】

試験はレポートにて評価します。具体的な試験問題は、最終授業後に提示します。

なお、本授業では教科書を指定しないため、授業中に配付した資料や授業中の解説をメモするようにしてください。試験問題はこの範囲から出題します。

【評価方法】

試験の成績、グループワーク（企画・取組・発表・自己評価）にて評価します。

- ・試験の成績：70%
- ・グループワーク：30%

【テキスト】

必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

必要に応じて文献・資料を紹介します。

【授業外における学修方法及び時間】

予習・復習課題を提示します。予習課題は次回の授業時までには調べるようにしてください。

また、復習にあたっては、次の点に留意してください。

- ・ 小児保健、成人看護など、看護学の専門科目をしっかりと学び、復習してください。教育学にて学ぶ内容と関連しています。
- ・ 教育学に関わる教育事象はニュースや新聞などで取り上げられることが多いです。子ども、学校などのキーワードを基に、ニュースや新聞を読んでください。

基礎分野

【科目】基礎看護英語	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】西村 德行	【開講時期】通年 【配当年次】1年
【所属・職位等】都城工業高等専門学校一般科目特任教授	

【授業における到達目標】

- ・看護に必要な英語の意味が分かる。
- ・看護に必要な英語表現が使えるようになる。
- ・看護に関する英語文献を読んで理解できる。

【授業の概要】

- ・毎回の授業で「はじめての看護英語」の既習の語句・表現に関して復習テストを実施する。
- ・「看護系学生のための総合英語」については、与えられた英語の文章を一定時間内に読んで、内容を把握する練習を実施する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・「看護系学生のための総合英語」の読解練習では、二人ずつペアになって、与えられた内容把握の問題を考えていく。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	「はじめての看護英語」第1回 「看護系学生のための総合英語」Unit1
第2回	「はじめての看護英語」第2回 復習テスト第1回 「看護系学生のための総合英語」Unit2
第3回	「はじめての看護英語」第3回 復習テスト第2回 「看護系学生のための総合英語」Unit3
第4回	「はじめての看護英語」第4回 復習テスト第3回 「看護系学生のための総合英語」Unit4
第5回	「はじめての看護英語」第5回 復習テスト第4回 「看護系学生のための総合英語」Unit5
第6回	「はじめての看護英語」第6回 復習テスト第5回 「看護系学生のための総合英語」Unit6
第7回	復習テスト第6回 「看護系学生のための総合英語」まとめ
第8回	中間試験 「はじめての看護英語」第7回
第9回	「はじめての看護英語」第8回 復習テスト第7回 「看護系学生のための総合英語」Unit7
第10回	「はじめての看護英語」第9回 復習テスト第8回 「看護系学生のための総合英語」Unit8
第11回	「はじめての看護英語」第10回 復習テスト第9回 「看護系学生のための総合英語」Unit9
第12回	「はじめての看護英語」第11回 復習テスト第10回 「看護系学生のための総合英語」Unit10

回数	内容（方法）
第13回	「はじめての看護英語」第12回 復習テスト第11回 読解練習問題（1）
第14回	「はじめての看護英語」復習テスト第12回 読解練習問題（2）、「看護系学生のための総合英語」まとめ
第15回	最終試験

【試験・課題等の内容】

- ・「はじめての看護英語」：毎回配布する練習問題より選択して出題する。
- ・「看護系学生のための総合英語」：教科書の問題と毎回配布する練習問題より選択して出題する。

【評価方法】

毎回実施する復習テスト・中間試験・最終試験の結果を総合的に評価する。

【テキスト】

- ・はじめての看護英語 医学書院
- ・English for Nursing Students 看護系学生のための総合英語 南雲堂

【授業外における学修方法及び時間】

毎回実施する復習テストの学習に1時間程度要する

【科目】看護英会話	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】川北 直子	【開講時期】通年 【配当年次】2年
【所属・職位等】宮崎県立看護大学看護学部 教授	

【授業における到達目標】

【1】研究 (research)手法(method)の1つであるアンケート調査(questionnaire survey)の基本的な手順(procedure)を理解し、調査計画(research plan)から発表(presentation)までを体験する。

【2】異なる文化的背景(cultural background)を持つ対象をとらえるために必要な視点を理解する。

【3】（【1】【2】の学習を通して）英語の語彙を増やし、主に「話す」・「聞く」ことに慣れる。

【授業の概要】

【1】英語での口頭での(oral)アンケート調査(questionnaire survey)

- ・調査参加者(participants)に合ったグループテーマ(theme, topic)を設定する
- ・聴き取り調査(interview)で必要な情報を相手から引き出し、答えやすいようサポートする。
- ・調査結果(results)にもとづいた分析(analysis)内容を、英語で発表(presentation)する。

【2】異文化理解(cross-cultural understanding)

- ・異なる生活文化についての短い講義(lecture)を聴き、「看護学生的」情報分類について考える。
- ・グループで調べ学習を行い、報告(report)する。

【アクティブ・ラーニング】

グループ学習を中心に進めます。1人1人が責任を持って、意見交換・調査・分析・発表などにしっかりと貢献しましょう。「あきらめずに理解しようとする」「あきらめずに伝えようとする」姿勢が重要です。わからないときには遠慮なく質問しましょう。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	Self-introduction / assessment test Introduction to oral questionnaire survey, Survey group making
第2回	Group making, Topic setting & planning
第3回	Oral questionnaire survey (preparation & pilot study)
第4回	Oral questionnaire survey (interview)
第5回	Oral questionnaire survey (interview continued)
第6回	Oral questionnaire survey (interview continued), Summing up survey results
第7回	Summing up survey results, analysis
第8回	Analysis, making slides and preparing for presentation
第9回	Preparing for presentation, Presentation

回数	内容 (方法)
第 10 回	Presentation
第 11 回	Introduction to 'Cross-cultural understanding for nursing students', group making
第 12 回	Group research
第 13 回	Group research
第 14 回	Preparing for group report
第 15 回	Group report

【試験・課題等の内容】

期末試験のかわりに 2 回のグループ発表を行います。
必要に応じて、小テスト・課題の提出を求めます。

【評価方法】

発表・(35pt x 2 回), 授業・グループ学習への貢献(20pt), 提出物 + journal (10pt)

【テキスト】

プリント等で配布します

【参考文献】

辞書必携。電子辞書・携帯アプリ（種類は指定し、希望者は授業中にダウンロードします）は可。
翻訳ソフト・ライン辞書は使用禁止。

【授業外における学修方法及び時間】

隔週で授業を行いますので、次回までに必要な準備学習や練習をその都度指示します。

基礎分野

【科目】生涯スポーツ論	【単位数・時間】1単位（15時間）
【担当講師】榮樂 洋光	【開講時期】第1学期 【配当年次】1年
【所属・職位等】国立大学法人鹿屋体育大学 スポーツ・武道実践科系 講師	

【授業における到達目標】

健康の保持増進や楽しみを目的とする生涯スポーツの意義を理解する。また、様々な尺度や計算方法を使用し指標を知るとともに、運動による心身への効果を理解できるようになる。

【授業の概要】

健康の保持増進や楽しみを目的とする生涯スポーツの意義を理解する。また、様々な運動による心身への効果について学び、実践を通じた効果についても学んでいく。

【アクティブ・ラーニング】

小テスト・アンケートの実施

授業実践前後によるグループ・全体トークの実施

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	運動が健康に及ぼす影響について知る 体力とは、体力の定義
第2回	運動が健康に及ぼす影響について知る POMS 尺度を用いた運動の効果
第3回	有酸素運動と無酸素運動 運動の種類について知る
第4回	有酸素運動と無酸素運動 よい有酸素運動とは
第5回	健康に良いスポーツとは 適度な運動強度について知る
第6回	体力と健康の関係
第7回	疲労の防止法
第8回	肥満とその解消方法

【試験・課題等の内容】

レポート課題を与えます。書式を揃えて提出してください。

【評価方法】

授業への出席および取り組み状況（60点）、レポート（30点）により評価します

【テキスト】

適宜、配布します。

【参考文献】

適宜、紹介します。

【授業外における学修方法及び時間】

各回のふり返し学習を実施し（与えられたテーマについて）、生涯スポーツの理解を深める（各回1時間）

基礎分野

【科目】 スポーツ実技	【単位数・時間】 1 単位（30 時間）
【担当講師】 榮樂 洋光	【開講時期】 第1 学期 【配当年次】 2 年
【所属・職位等】 国立大学法人鹿屋体育大学 スポーツ・武道実践科系 講師	

【授業における到達目標】

様々なスポーツ種目の特徴を理解し、ルールやマナーを守って楽しむ実技を目指す。そのためにも準備や片付け等についても、協力しながら実践してく。また、身体を動かすことによる心身に及ぼす影響への理解を深めていく。

【授業の概要】

様々な種類のスポーツを通して、スポーツが身体に及ぼす影響への理解を深めていく。また、体育館や公共施設の使用など、使用場所や環境に応じたルールやマナーを理解していく。更にはスポーツを通して仲間とのコミュニケーション作りについても深めていく。

【アクティブ・ラーニング】

小テスト・アンケートの実施

授業実践前後によるグループ・全体トークの実施

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	体育館を活用したスポーツ①
第2回	体育館を活用したスポーツ①
第3回	体育館を活用したスポーツ②
第4回	体育館を活用したスポーツ②
第5回	体育館を活用したスポーツ③
第6回	体育館を活用したスポーツ③
第7回	テニスとソフトテニスの基礎から応用
第8回	テニスとソフトテニスの基礎から応用
第9回	障がい者スポーツの紹介と実践、イニシアティブゲームの紹介と実践
第10回	障がい者スポーツの紹介と実践、イニシアティブゲームの紹介と実践
第11回	ゴルフ（練習場における打球、マナー）の実践
第12回	ゴルフ（練習場における打球、マナー）の実践
第13回	水泳（プールによる基本泳法、救助法）の実践
第14回	水泳（プールによる基本泳法、救助法）の実践
第15回	水泳（プールによる基本泳法、救助法）の実践

【試験・課題等の内容】

最終回にレポート課題を与えます。書式を揃えて提出してください。

【評価方法】

授業への出席および取り組み状況（70点）とレポート評価（30点）により評価します。

【テキスト】

適宜、資料配付します。

【参考文献】

適宜、紹介します。

【授業外における学修方法及び時間】

各回のふり返し学習（種目、ルール等の学び、）を実施し、実践種目への理解を深める（各回1時間）